

松本清張記念館

◆館報◆

2005. 8
第19号

彼らは暗い運命を予期して
絶望に戦慄していた

『黒地の絵』
昭和33年6月 光文社

「黒地の絵」は
『新潮』昭和33年3月号と
4月号に掲載された。



現在入手できる本
『松本清張全集』第37巻(文藝春秋)
『黒地の絵』新潮文庫(新潮社)
『松本清張傑作総集Ⅰ』(新潮社)
『松本清張小説セレクション33短篇集Ⅱ』(中央公論社)

目次

- 松本清張研究会 第12回研究発表会 2
- 佐藤忠男講演会 4
- 大津忠彦研究発表 5
- 展示品紹介 5
- 清張原風景「点描」 5
- 企画展紹介「黒地の絵——刻まれた記憶」 6
- 探検！清張記念館 6
- みんなの広場 7
- 友の会活動報告 7
- トビックス 8

作品紹介

(一九五〇年六月11ワシントン特電二十
八日発A.P.)米国防省は二十八日韓国
の首都京城が陥落したことを確認した。
朝鮮戦争の始まりである。当初、北
朝鮮軍は米・韓軍が阻止できぬほどの
大部隊で南下をつづけた。米・韓軍は大田を放棄し、
光州を退却し、西南部からも圧迫をうけ、釜山の北
方地区に鼠のように追いつまれている。

敗戦と同時に米軍が駐留し、補給所として使用さ
れていた小倉のジョウノキャンプは、前線への兵士補給
基地として多くの米兵が送りこまれるようになった。
岐阜からジョウノキャンプに到着した黒人部隊も、
数日後には北朝鮮軍と交戦するため朝鮮に送られ
る運命にあった。しかも彼らは、退却する味方と追っ
てくる敵との隙間に投入されるのだ。夜になると風
が死に、蒸暑い小倉の町では、嵐音 園太鼓の音が
充滿している。絶望的な戦線に送られる黒人部隊は、
園太鼓の旋律に暴発し、集団脱走した。
前野留吉は、近所の炭坑で事務員として働いてい
た。妻の芳子と二人暮らしである。いきなり土足で上
がり込んできた黒人兵に芳子が集団で暴行された。
留吉に妻を守る力はなかった。

ジョウノキャンプでは、戦死した米兵の死体を本
国へ送り返すための死体処理が行われるようになって
いた。芳子と別れ、炭坑での仕事も失った留吉は、米兵
の死体処理に従事するようになっていた。あるとき、
死体のなかに芳子を暴行した黒人兵を認めると、留
吉はナイフでその体を……。
占領下の小倉、清張の身近で起こった事件を題材
にした傑作である。

(中野吉明)

松本清張における人生の設計

佐藤 忠男



日本大衆文学の非常に重要なポイントとして、学歴のない人が画期的な流れを作っていることが随所にあります。長谷川伸は股旅物という巨大な流れを作りました。小学校の二年か三年で中退している。大衆小説で一つの流れの頂点を極めたと言える吉川英治も、人情話の川口松太郎も小学校しか出ていない。それから、松本清張も小学校卒業ですが、推理小説というものを画期的に転換させた。この人たちは単に流行作家だっただけではなく、新しい分野を作り上げ、巨大な流れを作り出した。圧倒的に一流大学の人が多い。ゆる純文学に対し、例外もあるが大衆文学は小学校卒業にしかやれない文学であると思います。

映画界でもそうです。溝口健二は小学校、小津安二郎と黒澤明と木下恵介は旧制の中学校しか出ていない。一流大学出の監督もいますが、小津や溝口に勝る監督はなかなかいない、と言っても皆さん納得されるのではないのでしょうか。

大衆文学においても、映画においても、私は学歴のない努力者という言い方は間違っていて、近代教育によって失われる文化というものがあるんだと思います。それは何かというと非常に単純なもので、歌舞伎とか講談とか講釈、人情話やお坊さんの説教とか浄瑠璃節、日本の純文学が発生する以前か

らあった巨大な物語文化の流れ。この文化は大学卒業には受け継がれなかった。だいたいそういうものから学ぶ必要はないと近代の日本では考えられ、高学歴者の社会では排除されていました。だから小学校しか出ていない人たちによって受け継がれた。現在では学歴と教養とは関係なくなりましたが、五、六十年前までは、学歴によってかなり社会階層が違っていたし、所属する文化に違いがありました。松本清張という人は、そういう傾向の最後の人だったと思います。

たとえば、人情なんていうものが文化として重要なという認識は、近代文学の中にはないわけです。近代文学のテーマは基本的に個性とか知性とか自我の確立とかで、これは大学で確立され、保護されました。一方で、「文化とは要するに人情のことだ」という巨大な伝統も日本に存在したわけです。失われた文化と、保護された保存された文化について考えると、学歴の問題を抜きにしては考えられない。

松本清張の研究会ですけれど、小学校しか出ていない人しか作れなかった文化の流れというのが日本にはあったんだということを確認しないと、私の松本清張論ははじまらないんです。(笑い)

純文学では、自我の確立が大事で、そのために親に反抗しなきゃいけない、というようなことが重要な問題とされて発達してきました。ところが松本清張さんのような人は、家族を養うことが大事という強烈な責任感を持っていました。本当は文学好きなんだけど、念頭になんかして、親子関係や人情を大前提として消化して、自我より家族を養うことが大事、と日本国民の大多数も思っていた。これが自明のことだと思っている人たちの間で、伝統的には講釈とか人情話みたいなもの



さとう ただお
佐藤 忠男

映画評論家、教育評論家。
1930年、新潟市生まれ。

戦後上京し、『映画評論』の編集者となる。『映画評論』、『思想の科学』の編集長を経て、フリーの評論家に。幅広く評論活動を展開。アジア、アフリカ映画の紹介に力を注ぎ、福岡アジアフォーカス映画祭ディレクター、日本映画学校校長を務める。

1989年 久子夫人ととも川喜多賞を受賞。
2002年 フランス文化勲章、韓国玉冠文化勲章を受勲。

著書に、『日本映画思想史』『日本映画史』全4巻など。近著に『映画から見えてくるアジア』『誇りと偏見—私の道徳学習ノート』など。

の中で培われてきたのが大衆文学です。学歴がないことと教養がないことは別です。講釈や浪花節で教養を補ったと言いたいのではなく、江戸時代の教養人にとって普通だった教養が、この人達には普通の教養だった。

たとえば「或る『小倉日記』伝」、非常に有名だし皆さんも名作だとお認めになるでしょうが、私も感動しました。独学者はただ学問すればいいのではない、一つ、実に残酷なことが書いてあります。独学者はしばしば無駄な勉強に打ち込む場合がある。学校は「そんなことを研究したってダメだよ」と教えてくれるのがいいところですが、学校に行っていないとそういう点で損する場所がある。しかし松本清張さんは、この損を自覚していればいんだと言っています。文学とは人の心を震撼させる点を衝いて、初めて感動できますが、この小説にはそれがあります。これだけ努力して立派なことをやって無駄になるという。松本清張さんが実は痛切に感じていたことでしょう。自身も独学者でしたが、無駄



な勉強などに打ち込んだら親孝行できないということとは分かっている。しかしやっぱり自分は知的好奇心が旺盛にある、どう發揮すべきかということについての自覚があったから書けた小説だと思います。

「断碑」という小説でも見事に証明しています。のちに有名になつた考古学者の森本六爾をモデル

に描いているんですがこの人も中学しか出ていない。独学で考古学を身につけるんですが、謙虚でなかつたので学界といろいろな確執があつて、自分で同人雑誌を出します。それまでの資料を蒐集して計算して、という

考古学ではなく、発掘物の瓶の底に粉の粒が二つもあつたということからつまり食糧の貯蔵が行われていたんだ、それはどういふことか……、という考え方を日本で初めて生み出した人なんですね。学界では変なことを考える奴だと思われていた程度でしたが、若い人は興味を感じて集まってきて、後に考古学の巨匠になる人たちが育つた。だから現在では森本六爾は日本の考古学を画期的に前進させたと評価されていますが、実際は無惨な人生だった。松本清張さんは、本当に学問をやるうと思ふ素人は、学界とうまくやっていくためにはどうすればいいか、ということ余すことなく語っている。まずおとなしく、無邪気に無駄な研究なんかしないほうがいいと。次には、本当にいい研究ができれば学界の権威ある人達とうまくつきあわなければならぬと。

「半生の記」には、十七、八歳の時に新聞記者のふりをして中山神社の宮司にインタビューに行ったとある。これは松本清張さんにとって少年時代の輝かしい思い出だつたんだと思いますね。本当はいろいろ古いことを調べることがやりたかつたんだけど、そんなことをやめて身が立つわけではないし、親孝行はできないし、とあきらめたけど、でも書かずにいられない。考古学についても、勤め先の人が考古学について色々教えてくれたから、自分も興味をもつた、骨休めに一番よかつたのは各地の古跡などを探索することだつたと。のちに古代史への関心につながつたんだと思います。松本さんは、情熱的に打ち込んだとは書いていません。そんなことをやってみてもしょうがないということとは分かっていますが、それが一番楽しみだつたから、と書いています。私はこれは謙虚に書いているだけで、実は打ち込んでいたんだと思います、少なくとも内面的に。

エンタテイメントのかたちで真実を語るという、これは日本の大衆文学の伝統です。エンタテイメントであると同時に教育であり、それからまた社会のルポルタージューであるという性格。学問という体裁ではないが「親孝行は大事」とかそういう教育的配慮もあつた。総合的な教養や文化として日本の大衆文化は存在した。しかしそういう流れが明治の近代化の過程でいったん崩れたんですね。近代的な研究をする人は根拠を主にヨーロッパに求め、日本の伝統的にあるものは全て愚劣であるという建前だつた。しかしそれを受け継いだのが昔の大衆文学の作家です。つまり、教育性とそれから報道性、ルポルタージュー、それから歴史、さらには宗教性まで、全部大衆文化の中に一緒に混ざつていた。最も典型的に宗教性まで混ざつているのが中里介山ですね。教育性が最も如実にあるのは吉川英治。それからさらに、報道性が最も強烈にあるのは松本清張でしようね。そつつかちで大衆文化というものの伝統を、自覚

的だとは思いませんけど、自然発生的に受け継いだのがこれらの作家達でした。

私は松本清張を人生訓として読んでいます。私自身定時制高校しか出ていませんが、「日本映画史」という全四巻の本を書きました。映画史と名乗る以上これはやはり学問的著述です。日本では映画に関するアカデリズムというのはまだ確立されていませんし、そもそも映画を勉強する人は皆独学です。調べたつてしようがないという研究がいろいろあるけど、一生懸命やっているうちに、長い眼で見ると研究の蓄積の上に学問が成立してくる。私は自分で雑誌を出しました。「断碑」のモデルと同じですね。無名の人も、映画批評界の第一人者と目されているような人も投稿してくれました。惜しみなく資料を提供してくれる友人もいました。原稿として売れないような記事だけど、その人たちは一生をかけて研究をした。日本映画史上重要な歴史のポイントをまとめてくれた先輩もいました。そこでそれらを引用するがために、これなら礼を失しませんから、「日本映画史」を書くことができました。

私は松本清張の小説と自伝から独学で学問をする方法を学びました。まず、無駄な研究はしない。意義のあるテーマを慎重に選ぶことです。つぎに学歴コンプレックスをさらけ出して先輩たちの陰口をきくようなことはしない。人間関係を大事にして学問の人も独学の人も平等に協力し合えるような場をつくり出す。まあベスレーで稼いで資料を集めたり編集者に調査してもらつたりという具合にはゆきませんが、本職で信頼される立場を確立したうえで本当にやりたい研究をやる。これが松本清張から学んだ私の流儀です。

平成17年6月25日 中近東文化センターにて

清張作品における『考古学』の登場形態

大津 忠彦

(筑紫女学園大学教授)



清張が考古学を扱った作品の発表時期を見ますと、「断碑(風雪断碑)」「一九五四年」、「石の骨」一九五五年、「距離の女囚(女囚抄)」一九五四年と、初期の頃からはつきり見られる系統であることがわかります。考古学という分野は、清張作品に控えめながら登場することもしばしばです。作品の筋に関係があるのかと思われるようなところにフツとでてくる。これこそ清張のスタイルであり、注目すべき点ではないかと考えています。社会派としての新境地を開いたことで有名な「点と線」ですが、このタイトルに清張史観が象徴されています。本文中、三原警部補の報告に次のような文章があります。佐山とお時とはばらばらな二つの点でした。その点が相寄った状態になっていたのを見て、われわれは間違った線を引き結んでしまったのです。」「邪馬台国」(清張通史)「所収」には次のようにあります。点と点の空白は、ぼつぼつと散っている点である。点と点の空白に「線」をひいてつなぐのが推理である。だから推理がまちがっていれば、線の引き方もまちがうわけで、さらに見当がいの「点」にそれをつなげば、結論はとんでもない

方向にされる。(この二つの文章は共通しています。また史観に関連しては「火神被殺」やエッセイ「大岡昇平氏のロマンチックな裁断」「私の小説作法」などでも語られています。たとえ筋は空想であっても、小説には現実がなければならぬから、部分についてはできるだけその方面のことを取材する。人と会うこともあるし、背景となっている土地にでかけることもある。むろん、参考書も読む。それでわからなければ専門家のところへ聞きにゆく。(略)納得がいくまで聞く。(私の小説作法)このような姿勢を堂々と明言し、いわば手の内を明かしています。残念ながら常にバツینگは大きかったのですが、清張のスタイルが果たして真に理解されていたかどうかは甚だ疑問です。

作品の中に考古学がどのような形をとって登場しているのか、社会と考古学との関わり具合からいくつかに分類することができるようです。

①考古学または資料が純粹に取り上げられる作品群
「笛壺」(「支払い過ぎた縁談」(石包丁)、「塗上」(遠賀川式土器)、「万葉翡翠」(加曾利E式の深鉢式土器)、「葦の浮船」(木目鉄線糸文蓮花状文土器)、「月」(印章)、「土偶」(土偶)、「内海の輪」(ガラス釧)、「鷗外の婢」(三角縁神獸鏡・櫛描文土器)など、考古学の用語が細かい分類で出てきます。ここまできると、専門家としてはどうしてここまで書けるのかと思う。時にはそんな論があったかと思うほどですが、決して荒唐無稽ではないのです。「ネッカー川の影」(化石人骨)、「神の里事件」(有銘文帯式四神四獸鏡・階段式神獸鏡I・V式鏡)などに見られるよう、海外、西アジアについても詳しいのです。

②ある個人の社会での在り様と個が帰属する社会(学界)との関連を描いた作品群
「距離の女囚」「断碑」「石の骨」、これを私は勝手に考古学三部作と名付けています。いずれも不遇をかこち、学界から踏みつけられる人物が主人公です。清張

おお っ ただ ひこ
大津 忠彦

九州大学大学院文学研究科
博士課程考古学専攻
1952年生まれ。



東京の出光美術館に学芸員として勤務の後、中近東文化センターで研究員として勤務。常設展示、企画展開催にも従事し、今年7月10日まで開催された企画展「小説に読む考古学」を担当。この間、数度にわたりイラク、トルコ、イラン等の遺跡調査に参加、調査結果を発表している。2005年4月から、福岡県太宰府にある筑紫女学園大学文学部アジア文化学科教授。

は「断碑」のあとがきカッパペルス松本清張短編集3)で森本六爾を(不遇な才能ある考古学者)と評していますが小説の主人公・木村卓治そのままです。これらの作品群は、考古学という学問としてまだ未成熟で狭い世界を社会がフェアに受け入れられない、両者の葛藤を描いたまさに「社会派的な作品」と言えるでしょう。

③作品を通して清張の考古学への意見や学説を唱えた作品群
「高校殺人事件 赤い月」「火の路」(眩人)「東経139度線」など。「内海の輪」は予見的な作品となりました。発表から三十年、実際に弥生時代のガラスの腕輪が出土したときは実に驚きました。「熱い絹」「ペルセポリスから飛鳥へ」なども昔から捨てきれない考古学への思いの発露ではないかと思われれます。荒つぽく三つに分類してみましたが、考古学に関連した作品はいろいろあるべくしてある作品ばかりと言えるのではないのでしょうか。

今後は、これらの作品が当時の考古学界動向や、社会とどのようにリンクして形成されたのかを位置付けなければいけないと思っております。

平成17年6月25日 中近東文化センターにて

参考文献 大津忠彦編著「小説に読む考古学 松本清張文学と中近東」二〇〇五年三月六日 財団法人 中近東文化センター

腕時計

清張と時計から連想するものは、「不思議の国のアリス」に登場するワサギである。「忙しい」「時間が無い」と言いながら何度も文字盤を見たに違いない。

時計は男性にとって、身に付ける数少ない貴金属であることから、しばしばダイヤモンドに欠かせないこだわりアイテムとして注目される。松



本清張の場合はどうだっただろう。モンブランの万年筆を数十本所有しているのに比べ、腕時計は複数見当たらない。万年筆とていわゆるコレクションとは違うようだ。同じ型が数本ずつある。とにかく実用重視らしく惜しげもなく使ったものはかりである。時計はその点、正確であればひとりで充分ということかもしれない。

清張が晩年に着けていたこの腕時計の詳細について、販売元のセイコーに問い合わせたところ、「ドルチェ」というシリーズで一九八一から一九八三年に製造、価格五万五千円、竜頭(りゅうず)はオニキス付で、高級感の漂ったドレスウォッチとして売り出されたこ

とがわかった。一九八一年の大卒初任給が約十二万円というから確かに安くはない。参考までに記すと、カシオのGショック第一号機が一九八三年に発売された時の価格が一万千四百円、サンリオから一九八〇年に発売されたハローキティデジタルウォッチが三九八〇円だった。時代はデジタル興隆期にあたり、時計の世界もデジタルがもてはやされ始めた頃だった。この年、田中康夫の『なんとなくクリスタル』が刊行され「クリスタル族」という言葉が流行した。有名レストランやファッションブランドに象徴されるお洒落な都会のライフスタイルを志向する若者たちのことである。そんな時代にあつて、しかし清張はいかにも無頓着にこのオールドファッションアナログウォッチを購入しているように思われる。

腕時計は、松本清張という稀有なまでに時間を惜しむ作家に買われ、亡くなるまでの約十年腕に巻きつけていたことになる。その間何を見たのか。作家のギョロリとした眼差しが目に浮かぶ。

(学芸員 柳原 暁子)



『草の怪』取材(平成元年 オランダ)

清張原風景

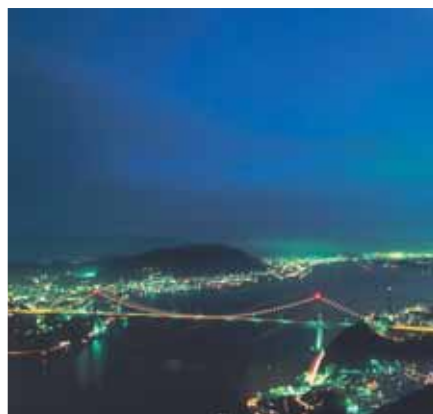
点描

関門の夜景

「家の裏に出ると、渦潮の巻く瀬戸を船が上下した。対岸の目と鼻の先には和布刈神社があつた。山を背に鬱蒼とした森に囲まれ、中から神社の蓋などが夕陽に光つたりした。夜になると、門司の灯が小さな珠をつないだように燦く。」(「半生の記」)

壇ノ浦から関門海峡を挟んで九州を望むと、正面に和布刈神社、そしてその右手に門司の港と町並みが続く。塩田の広がる小さな漁村でしかなかった門司港は、明治二十二年に特別輸出港に指定され、翌年から石炭輸出を開始、九州鉄道の起点ともなり飛躍的に発展した。三井物産、大阪商船、日本郵船などの進出も相次ぎ、明治三十五年三月には大阪電燈門司支店が千三百燈の点燈能力で営業を開始した。申し込みが相次ぎ、すぐに千燈の増設が必要となったという。

「旧壇ノ浦の家々には電灯がきてなくてランプの暮しであった。祖母はよくランプの



関門の夜景(下関側から)

ホヤ(ガラス筒)を掃除していた。対い側の門司の街は電灯のイルミネーションで、この夜景は、母が泣く私をあやすときによく見せた。」(「骨壺の風景」)

門司港に接岸した外国船や夜になると輝く町並みは、幼い清張にとって別世界のように映ったのかもしれない。

昔から百万ドルといわれた関門の夜景であるが、現在では壇ノ浦の天空に関門橋のイルミネーションがネックレスのようにつながつている。

当初あまり気のすすまなかった「半生の記」執筆であるが、その単行本化にあたって次の文章を削除している。

「もし、少年に『未知への憧れ』があるとしたら、私の思慕は三つぐらゐのときに見た門司の夜景からはずまったのかもしれない。」

(中野 吉明)

黒地の絵——刻まれた記憶



期間 平成17年8月1日(月)～10月31日(月)
場所 松本清張記念館地下 企画展示室小倉北区内2番3号)

「黒地の絵」は、昭和25年朝鮮戦争勃発直後に小倉で起きたアメリカ軍黒人兵集団脱走事件をテーマにしたもので、昭和33年に発表されました。

作品は、小倉祇園の太鼓に触発され小倉・城野キャンプを脱走した兵士達に妻を暴行された男の復讐を描いています。朝鮮戦争の最前線に投入される兵士達の絶望感、小倉祇園の躍動感、さらに死体処理の様子がリアルに描写されており、テーマの特異性を含め、清張作品の傑作の一つとされています。

松本清張は事件発生当時、被害発生地域に住んでおり、直接体験ともいべきテーマに取り組んだもので、作品化にあたり昭和32年秋に小倉に帰

郷し、取材しました。

事件発生から55年、人々に刻まれた記憶を掘り起こし、作品とその周辺を再検証します。



きよしとハルコの探検! 清張記念館

全館 “床の材質”の巻



きよし いつ来てもここの床はきれいだね。なにか特別な手入れをしているのかな?

ハルコ 実はさっきミュージアムショップの人にきいてみたの。表面をポリウレタン加工したカリンという木だって。来館者からよくきかれる質問のひとつだそうよ。

きよし 僕らもまんまと同じ質問をしてしまったわけか。

ハルコ 生長が遅いため木目が細かく、とても堅い材質で、紫檀に次ぐ高級木材のひとつなんですって。合板じゃなく無垢材でこれだけの床面積を仕上げたのは、すべてにおいて本物を目指した清張をイメージした、建築家・宮本忠長氏のこだわりだそうよ。

きよし よーし! 「本物が似合う男」を継ぐ者としては、いつか家を建てる時には床はカリンにするぞ。今はカリン入りのど飴ぐらいしか買えないけど、手始めに買ってくるかつ!

ハルコ あ、言い忘れてたけど、実のなるカリンは同じ名前だけど別の種類の木なんだって～。あ～、行っちゃった…



この風合いに魅かれ、自宅も同じ床に入手方法を訊ねた来館者もいたそう

年月が経っても色褪せない特長を持つ花欄はまさに清張の世界を伝える当館にふさわしい材質。開館以来変わらぬ輝きをもって来館者を迎えています。手抜きのない仕事ぶりを一度眺めてみてください。

今回は、特にテーマを決めずに、最近お寄せいただいた皆さんの「声」を自由掲載しました。

みんなの広場

- ・ 出生が築城町であることと清張の作品をほとんど読んでいるので、小倉に行くことがあったら、ぜひ記念館へとずっと思っていたので念願がかなって満足です。(60代・高知・女)
- ・ 展示物の多さに感心しました。「点と線」以外の作品も推理劇場で見たと思いました。ありがとうございました。(50代・広島・女)
- ・ 清張作品は余り好きではなかったけれど、訪れて改めて、作品の分野の広さ、深さを発見して、一度読んで見ようと思いました。スゴイ人ですね。(60代・兵庫・女)
- ・ 点と線のオリジナル映像感動いたしました。風間完様の挿画は見事としか申し上げ様が有りません。その人物の内面が、

にじみ出て来るものを感じました。声を西田(敏行)さん、緒形(直人)さんになさったのも、ピッタリと思います。(70代・福岡・女)

- ・ 作家がどのような空間で創作活動を行っているのか、滅多に見られるものではなく、その意味で「清張の居宅」を展示しているのを見られることは、面白いと思った。(20代・東京・男)

このコーナーでは、アンケートなどでお寄せいただいた意見等をご紹介します。清張や作品に対する思い、エピソードなど何でも結構です。皆さんの「声」を是非、記念館までお寄せください。
※アンケートは館内にも置いてあります。

友の会 活動報告

● 関東文学散歩(5月13日(金)～15日(日):参加者24名)



関東の清張ゆかりの地や作品の舞台などを、関東の会員と共に訪問しました。

最初に企画展「小説に読む考古学・・・松本清張と中近東」を開催中の中近東文化センターを訪問しました。次に訪れたのは三鷹市にある禅林寺。ここには清張が生涯テーマとした森鷗外の墓があり、清張自身も訪れたことがあるそうです。

そして調布の深大寺を訪問しました。深大寺は東京の郊外に位置し、清張作品にしばしば登場する場所です。ここが舞台となっている作品には「波の塔」「歪んだ複製」「喪失の儀礼」「笛壺」などがあり、緑豊かで情緒のある所でした。その後、「黒い福音」の舞台、グリエルモ教会のモデルとなったカトリック下井草教会も訪問しました。

また、今回の文学散歩では杉並区高井戸の松本邸にも訪問することができました。ご遺族のご厚意により、家の中や庭などを見学することができ、とても貴重な体験ができました。

● 文芸講座

(5月19日(木)、6月2日(木)、16日(木)、30日(木):参加者計64名)

松本清張記念館友の会会長今村元市氏を講師に「表象詩人」「骨壺の風景」「鷗外の婢」「時間の習俗」の4作品をテーマに、各作品1回ずつ計4回に亘り、文芸講座を実施しました。作品の詳しい解説に加えユーモアを交えたエピソードの紹介などあり、毎回大変盛況でした。



友の会会員募集!!

ただいま友の会では新規会員を募集中です。松本清張記念館友の会では清張ゆかりの地の見学や読書会・講演会等の開催、会報の発行など多彩な事業を展開しています。

8月から翌年7月までの1年間を1会計年度とし、年会費3,000円となっています。

■友の会事業

- ・ 講演会 シンポジウム等の開催
- ・ 映画ビデオ等の上映会の開催
- ・ 読書会 文芸講座等の開催
- ・ 会報の発行
- ・ 松本清張ゆかりの地、他都市の文学館見学事業の実施 など

■会員特典

- ・ 常設展の招待券(年間4枚)進呈
- ・ 友の会主催事業のご案内、会報の進呈
- ・ 企画展(年2回)のご招待
- ・ 友の会オリジナルグッズの進呈(加入年度のみ)
- ・ 記念館主催事業のご案内・参加
- ・ 喫茶「石の館」(記念館内)の飲食料金1割引
- ・ 記念館広報誌(館報)・企画展図録進呈

友の会入会のお申し込みは… TEL. 093-582-2761 松本清張記念館友の会事務局まで

記念館オリジナル映像

「日本の黒い霧
——遙かな照射」
公開

構成

日本の敗戦と松本清張の戦後
帝銀事件
下山事件
松川事件
黒地の絵

記念館推理劇場で放映する三本目のオリジナル映像が完成しました。

記念館では、松本清張の業績をオリジナル映像で紹介するため、これまで古代史関連の「『火の路』へ」、推理小説「点と線」を制作し、公開してきました。

三本目の映像は、清張がその探究心と情熱を注いだ現代史の代表作「日本の黒い霧」を題材に、さらに占領下の小倉で発生した黒人兵集団脱走事件を扱った小説「黒地の絵」を加えたもので、貴重な資料フィルムや写真などを使ったドキュメンタリー映像です。

記念館では開館当初から、清張の代表的ジャンルである古代史、小説、現代史に関する三本の映像をそろえることとしており、今回開館七周年を記念して公開する「日本の黒い霧—遙かな照射」で、三部作が完成することとなります。



イラスト：山藤 章二

編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093(582)2761
FAX 093(562)2303
http://www.kid.ne.jp/seicho
制作 (株)エディックス

- 開館時間 午前9:30～午後6:00 (入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス JR:小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からは100円バスをご利用いただく便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車:北九州都市高速、大手町ランプより5分

入館者70万人達成

平成17年4月18日、記念館の入館者が70万人を超えました。

70万人目となったのは、京都市在住の丹羽れい子さんでご主人と二人で入館されました。40年来の清張ファンというれい子さんにとっては念願がなつての来館が記念すべき70万人目と重なり非常に喜んでおられました。丹羽れい子さんには認定証と記念品が贈られました。



第8回

松本清張研究奨励事業募集

募集要項

- 対 象 ①松本清張の作品や人物を研究する活動
②松本清張の精神を継承する創造的かつ斬新な活動(調査、研究等)
※上記①②の活動で、これから行おうとするもの。ジャンル、年齢・性別・国籍は問いません。ただし、未発表に限りません。個人または団体も可。
- 内 容 入選者(団体)に200万円を上限とする研究奨励金を支給します。
- 応募方法 今後取り組みたい調査・研究テーマ等の内容が具体的にわかる企画書、予算書、参考資料(様式は自由、ただし日本語)を、平成18年3月31日までに応募してください。

※詳しくは記念館までお問い合わせください。

●編集後記●

記念館にいと、小倉祇園太鼓の音が響いてきます。この音を聞くと、夏が来た、開館記念日だと気分が入ります。新たなオリジナル映像の公開、開館7周年など記念館にとって、非常に大事な年です。よろしくおねがいます。(中野 吉明)



新北九州空港
2006.3.16 OPEN

新しい空、新しい私。

